

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
<p>■学力検査: 2/24(水)</p> <p>■面接・特色検査: 1/26(火~27(水))</p>	<p>2/4(木) ~5(金)</p>	<p>3/2(水)</p>	<p>3年生(2学期)5教科+4教科×2 (25+20×2=65点満点)</p>

教育のプロ
トライさん



傾向

平成28年度入試より、下記に入試制度が変更となった。

- ①原則すべての高校で、1次入試は5教科入試に(体育科【駒場・野津田】および芸術科【総合芸術】は3教科と実技検査)。
- ②学力比重は「学力検査7:内申点3」に統一。
- ③実技4教科の内申点は1.3倍から2.0倍へ。

昨年度の一般共通入試問題は、ここ数年に比べると得点しやすい難易度が低めの出題だった。

科目別対策

英 語

過去11年間、大問4つ・小問23問の構成は同じ。記述問題も、例年ほぼ8問。「聞く力(リスニング)」「読む力(長文読解力)」「書く力(作文力)」の3つの力を試す問題が、例年幅広く出題されている。一方で、文法的な知識を直接問うような設問はない。ポイントとなるのは、速読力。そのための語彙力増強と長文読解対策を入念に行いたい。

数 学

過去13年間、大問5つ・小問19問の構成は同じ。例年、中学3年間の学習領域全般から幅広く出題される。大問1はどれも基本的な問題。大問2については取り組み易いが、大問3・4・5の関数・平面図形・空間図形の問題は例年難しい傾向にある。大問1・2でいかに取りこぼさず、確実に得点できるかが重要となり、そのための基礎力養成がポイント。

国 語

大問1が漢字の読み取り
大問2が漢字の書き取り
大問3が小説(文学的文章)
大問4が評論(説明的文章)
大問5が現古融合問題
この5問が例年不変の構成となっている。特徴のひとつは記述問題で、大問3では35~50字、大問4では200字の記述問題が出される。大問4の作文は、筆者の意図に沿って、自身の具体的な体験を含めて意見を述べる形式。要対策。

理 科

例年、大問6つの構成。
1、2年生の学習内容からも多く出題されるので、各分野をまんべんなく総復習しておくことが必須である。特徴のひとつは実験考察問題で、資料の意味を正確にとらえる力と、それを理科の知識と結び付けて考える力が問われる。実験の結果やその理由を簡潔な文章でまとめる練習をしておきたい。表から選択する問題の対策もしておこう。

社 会

大問6つ、小問20問の構成。地理・歴史・公民からまんべんなく出題される。そのため、理科と同じく、各分野の総復習が必須。地理分野では、知識問題に加え、統計資料の読み取りも出題される。歴史分野は、おおむね基本的な出題が多い。公民分野は、地方自治に関する出題が多い。まずは基本事項を整理して、得点現の科目にしよう。